

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年12月1日

【評価実施概要】

事業所番号	270301328		
法人名	社会福祉法人白銀会		
事業所名	グループホーム八戸グリーンハイツ		
所在地 (電話番号)	〒031-0822 青森県八戸市白銀町字沢向13番地1 (電話) 0178-32-4764		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 10月 1日	評価確定日	平成 20年 12月 1日

【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 4月 22日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	7人, 非常勤 3人, 常勤換算 8.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	8,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 900 円			

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.2 歳	最低	80 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人謙昌会 総合リハビリ美保野病院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

デイサービスセンター・ケアハウス・生活支援ハウスに併設されており、利用されている地域の方々が気軽に訪ねて来る。畳の小上がりが設けられている食堂兼居間を中心に、それぞれの場所でそれぞれのペースでごく普通の生活が営まれている様子が感じられる。日常生活はもとより、地域との交流活動等ホームの生活はできる限り入居者と職員が共に行っている。緊急時や感染症等のマニュアルや個人ケース記録等は、見やすく使いやすく整理されており、ホームの運営に日々丁寧に取り組まれていると感じられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 「本人の望む生活」「あたりまえの生活」を目指し、「入居者と職員が地域で共に生活する」ということにこだわって、一人ひとりを大切に、丁寧なかかわりを続けられている。また、ホームとしての地域での役割を果たす為に、入居者と職員のできることを行い続けている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員が自己評価を行い、日々のケアやホームとしての地域での役割を再確認された。何事も「これで良い」とは思わず、常に様々な視点から考え続ける取り組みがなされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 日々のケアや生活、ホームの運営について家族や地域の方々と検討し、その取り組みや結果について報告し、サービスの向上につなげる事ができている。また、認知症やホームとしての地域での役割について理解を広める場として活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11) 家族と職員は一緒に、入居者本人を支えていく同志であることを伝え続け、いつでもどのような事でも話しやすい雰囲気づくりに努め続けておられる。出された意見に対しては、迅速、真剣、丁寧に解決に向けて取り組まれている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域活動への参加では、掃除ボランティアや手作り品の寄贈等入居者と職員が楽しみながら一緒に行えるよう常に考えている。活動を通して、近隣では顔なじみとなり気軽に挨拶を交わす関係がつけられている。管理者は認知症普及活動を通して「認知症になっても、なにもわからなくなるのではない」ことを地域の方々に伝え続けている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「心に触れ 願いに気づき 必要に答え 信頼を築いていく」の法人理念の下、入居者がこれまでの生活を途切れさせずにホームで暮らしていけるよう、ホーム独自の理念をつくりあげ「社会の一員として地域で暮らすことを支える」ことを目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を意識できるようホーム内や事務所に掲示し、常に話し合いを持っている。管理者と職員は毎月チームや個人の目標を掲げ、取り組みを振り返り、専門職としての気づきを得て理念の実践に向けている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内や小学校の行事など地域活動に、職員と入居者が共に参加し交流を図っている。入居者手作りの雑巾や手芸品を寄贈したり、クリーンパートナーとして掃除ボランティアを行うなど、できることを継続している。管理者は、キャラバンメイトとして講座を開催したり、小学校で認知症の本の読み聞かせを継続しているが、それについて、子供達が家庭に戻ってから家族でも話し合われ、効果が広がっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員全員がそれぞれ自己評価を行うことで、日々のケアやホームとしての地域での役割を再確認し、介護観を深めている。また、外部評価の結果を運営推進会議等で報告、検討し、改善にむけた取り組みがなされている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>活動報告や自己評価・外部評価結果の報告、様々な課題について、ご家族や地域の方々と一緒に話し合い、サービスの向上に反映されるよう取り組まれている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>機会あるごとに市担当者へ電話や訪問し、サービスの内容や取り組みの理解を図る為に会議録や広報誌の提出をしたり、サービス提供や地域活動において一緒に考え、サービスの質の向上や認知症の理解に向け連携して取り組まれている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>内部・外部の研修の機会があり、知識と理解を深め、必要な人にはそれらを活用できるよう支援する取り組みがされている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部の研修により学ぶ機会がある。自分達はその可能性と背中合わせであるという危機感を持ち、常に日々のケアを振り返り話し合いをし、虐待の防止に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>わかりやすい言葉で丁寧に、本人や家族が不安や疑問点を残さないよう確認しながら説明し、理解・納得が得られるよう努められている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>広報誌、運営推進会議の報告、健康状態、金銭管理のほか、生活の様子や楽しかった事・うれしかったこと等について手紙や写真の送付、面会時や電話連絡等により報告している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日ごろから話しやすい雰囲気づくりに努め、お声掛け、意見箱の設置、アンケート、運営推進会議でフリートークの時間を設ける等して、意見をくみ取る努力をされている。また、くみ取った意見は運営推進会議等で話し合われている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者と法人内の職員との交流を日常的に図っており、やむを得ない異動によるダメージを防ぐ事に役立っている。また、新採用者においては、詳細な引継ぎを行ったり、チームで支えあい早期に良好な関係が築けるよう努められている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップの為、内部・外部の研修については、それぞれの能力や経験に合わせて計画が立てられている。管理者は適宜文献等情報提供したり、チームや個人の目標を振り返る機会にはスーパーバイザーの役割を担っている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上を目指し、様々な協議会に加入され、研修等の参加を通してネットワークを構築し、情報交換や勉強会を行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心してホームでの暮らしが始められるよう、入居前に交流を持ったり詳細な情報収集を行い、馴染みの関係がつけられるよう工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の知恵や技に支えられ、入居者と職員・入居者同士が生活のパートナーとして支えあう関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を把握できるよう、入居者との関りを通じて言葉や行動を見逃さず、表情等から言葉にならない訴えを押し量るよう努められている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常的に本人の状態について話し合いをもち、本人・家族の意向と合わせ、チームメンバー全員が「本人にとっての最善」を考え、介護計画に活かされるよう取り組まれている。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しと共に、状態変化や新たな課題やニーズが抽出されたときはその都度計画の見直しがされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じ、通院や外出等その時々々の要望にできるだけ応えられるよう、更に入居者の主体性を引き出しながら支援できるよう努められている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族の意向により主治医を決定し、健康面について相談できている。日常での情報を医療側へ伝え、適切な医療が受けられるよう支援されている。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に本人・家族の考えを確認し、状況の変化に応じてその都度最善の方法を検討している。また、医療側へグループホームの役割を理解してもらえるよう働きかけを継続している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は一人ひとりの尊厳を守ることが大切であることを認識しており、プライバシーを損ねる言葉かけや対応は見られない。また、入居者同士もお互いを認めあえる関係がつけられるよう支援されている。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>それぞれの過ごし方を一緒に相談したり、引き出しながら一人ひとりのペースにあわせた支援が行われている。また、更に柔軟な対応ができるよう職員全員が、常に工夫する努力をされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食に係わる行為を大切に考え、旬の食材や郷土料理をメニューに取り入れたり、買い物や調理など様々な場面で個々の能力に応じ入居者が係る事ができるよう支援している。また、食事の時間が心地よい団欒の時間となるよう、職員も交え全員で食卓を囲んでいる。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	清潔保持はその都度行っている。気の合う同士の入浴や希望にあわせたタイミングでの入浴等、入浴を楽しむ事ができるよう工夫されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、針仕事、彫刻、俳句、書道、手芸等「できること」「わかること」でそれぞれの力を発揮し、好きな事をしながら生活を楽しみ自信を回復できるよう支援されている。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりその日の希望に添って外出できるよう、希望を引き出すよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について内外の研修で学ぶ機会がある。入居者の自由で安らぎのある暮らしを支援する為に、職員間でお互いのケアを見て、身体拘束になっていないか日常的に話し合いを続け、身体拘束をしないケアに取り組まれている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけずに、自由に出入りしている。安全が確保できるよう併設施設の職員とも連携し、見守りが行われている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけられている	年2回法人全体で避難訓練を行うほか、地震発生時の都度、避難誘導しながら繰り返し検討されている。夜間等職員数の少ない場合についても、消防の協力を得て避難、通報、消火訓練が行われている。また、近隣の協力を得られるよう日ごろの交流を大切にしながら少しずつ働きかけが行われている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は母体施設の栄養士がたてている。食事や水分摂取量は、十分な量を確保できるようチームで情報が共有され、必要に応じて栄養士への相談や医療との連携がなされている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ホーム独自のマニュアルを作成し、流行時には情報収集を行い、予防・対策については再確認しながら取り組まれ、地域連携室の看護師による手洗い指導を受ける等予防に努められている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間はカーテンやすだれで採光が調節され、ソファや畳の小上がりが置かれ、季節の花が飾られ、整理整頓がなされ、それぞれが居心地良く過ごせるよう工夫されている。</p>		<p>利用者のその時々状況に合わせ、常に検討されることを期待したい。</p>
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>くつろぎ安らぎの居場所になるよう、本人と相談したり家族の協力を得るなどして、必要以上に持ち物を制限することなく、居心地のよい居室作りがなされている。</p>		

 は、重点項目。